

加西トマト生産地域就農・定着応援プラン

作成年月日 令和8年8月31日
(改訂年月日 年 月 日)

チーム名	加西市施設そ菜園芸生産研究会 加西とまと出荷組合
------	-----------------------------

地域の概要

加西トマト生産地域はこのような地域です

1 位置

加西市は兵庫県のほぼ中央、播州平野の北東内陸部に位置しています。加西トマト生産地域は、市内の全域に渡っています。

2 人口

加西トマト生産地域がある加西市の人口は約 4.1 万人です。

3 気候

加西市は瀬戸内式気候に属しており、年間平均気温は16度前後と1年を通して温暖な気候です。積雪はほぼ無く、気温の年較差・日較差が大きい内陸型の特徴をあわせ持っているため、農産物の生産に適した地域です。

4 加西トマト生産地域の農業

加西市は太古から稲作を中心に人間の生活が営まれてきた地域で、約1300年前に朝廷の命で編纂された「播磨国風土記」にも多くの記述が残されています。

地域には大河が流れておらず、古来水の確保に苦労してきましたが、先人は多くのため池を作ることによって農業用水を確保し、災害の少ない安定した気候の中で農業を発展させ、県内有数の米どころとしての地位を確立しました。

そのような中、加西トマトは、稲作の裏作として露地栽培から始まり、70年以上の歴史があります。昭和29年に施設栽培が始まり、特に、加西市内にあるハウスで土耕栽培している大玉トマトは“加西とまと”と呼ばれ、甘みとうまみが強く酸味が少なく、果肉がぎゅっと詰まってしっかりとした食べ応えがあります。加西市の特産品として贈答品、ふるさと納税返礼品に用いられ、また、京阪神等の大消費地に近いことから個々に出荷が行われ、加西とまとは市内外に知られています。

5 観光

法華山一乗寺、兵庫県フラワーセンター、青野運動公苑、
古法華自然公園、鵜野飛行場跡、北条の宿（古い町並み）、
気球のまち etc”

加西とまと出荷組合の概要

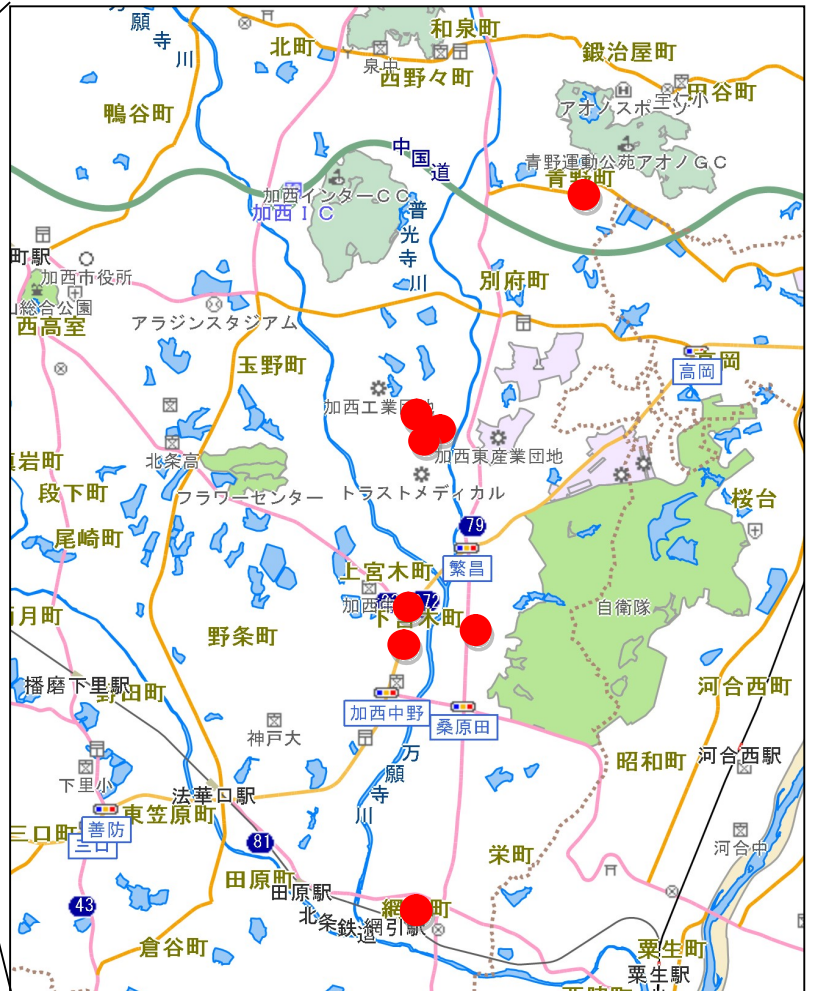
この会は加西市施設そ菜園芸生産研究会の内部組織で、施設そ菜園芸生産者を以って組織し、市内における施設トマト生産の健全なる発展と栽培農家の連絡協調を図り、組合員の育成助長に期すことを目的としています。

現在会員は4名。市場出荷は行っていません。主な販売先は自らの直売所とJA兵庫みらいが運営する直売所「かさい愛菜館」となっています。かさい愛菜館では5月中旬に「とまとフェスティバル」を開催し、当日様々イベントを通して加西とまとの広報活動を行っています。販売活動だけでなく、地域の小学生を対象にトマトハウスの見学や収穫体験等を通じて、加西で美味しいトマトが栽培されていることに気づいてもらう食育活動も行っています。

地図

加西市

加西トマト生産地域



加西トマト生産による経営のイメージ

1 主要品種

- ごほうび（大玉）
- 桃太郎はるか（大玉）
- 桃太郎ファイト（大玉）
- フルティカ（中玉） など

“加西とまと” は、ハウスで土耕栽培している大玉トマトです。その他、中玉トマト、ミニトマトも生産が盛んです。

2 収入の目安

経営内容にもよるため一概には言えませんが、加西トマト生産地域で活躍しているAさん（45歳）の事例です

栽培品目：施設トマト（ミニ・大玉）

経営面積：11a（ビニールハウス）

農業収入：998万円

農業経営費：624万円

農業所得：374万円

3 販売先

加西とまと出荷組合による市場出荷はありません。

軒先販売やスーパーへの直卸販売、JA 兵庫みらいの直売所「かさい愛菜館」への出荷が主な販売先です。

求める新規就農者

加西トマト生産地域ではこのような新規就農者を求めています

- ・栽培技術の向上に努め、品質が良いトマトを、安定して生産できる方
- ・“加西とまと” の生産に取り組む方
- ・目標を持って、計画的に経営できる方
- ・加西市に住み、農業や地域活動を通じて地域を盛り上げてくれる方
- ・生産者同士の交流を積極的に行い、自己の経営を高める意欲のある方

【出荷組合等の活動】

- ① 「加西とまと」のブランド力を高める（かさい愛菜館でのイベント開催）
 - ② 新規就農者の早期経営安定のために支援する（ほ場巡回等）
- ・研究会、出荷組合の活動（総会、研修会、視察など）に参加いただける方

就農者への支援

行政・ＪＡ・生産者のサポートが充実しています

・市、ＪＡ、県、農業委員会が「加西市新規就農促進協議会」を組織し、新規就農者それぞれの状況に応じた最善の受入れができる体制づくりをしています。

・国や県、市の制度を活用し、就農される方の技術習得度に合わせた実践的な研修をお薦めします。

・市内の各地域でトマトを生産する親方農家の指導を受けることができます。

加西トマト生産地域での農地探しや施設整備支援

・市、県、ＪＡ等の関係機関が情報共有しながら、空き農地を紹介します。

・加西市が認定する新規就農者となれば、市独自の施設機械整備支援（１／２補助）を受けることができます。

その他の支援

- ・国、県の補助事業とともに市独自の新規就農支援制度も活用して、就農される方に最適なサポートプランをご案内します。
- ・独立就農される方だけでなく、雇用就農される場合も、市独自の新規就農支援制度を活用できます。
- ・住居の斡旋や地域行事の案内など、農業に限らず生活面についても、市及び関係機関が連携してサポートします。

★就農までのスケジュール

①インターンシップ

→トマト栽培が自分の目指す農業かを知る期間【最大15日間】

②実践研修（県立農業大学校、兵庫楽農生活センター 就農コース、市内の親方農家など）

→就農を目指した本気の技術習得【1～2年間】

③就農に向けた準備

→研修中に同時進行。親方及び市内トマト生産農家との相談。

→農地や住居等の確保。

③ 加西市のトマト農家として経営を開始

上記のようなスケジュール以外でも、トマト栽培の経験に応じて柔軟なスケジュールを検討します。

研修には農繁期や農閑期、募集時期がありますので、相談のタイミングによっては、ご希望に添えない場合もありますので、予めご了承下さい。

加西トマト生産地域からの写真・メッセージ等



親方農家 岡田農産株式会社 岡田毅さん

うちは、収穫後、代掻きをして飼料作物を育て、毎年土壌をリセットしているのが大きな特徴で、他、様々な工夫が認められ農林水産大臣賞を受賞しました。また、子ども達への食育にも力を入れています。加西市は直売所が多いので、お客様を通して自分の生産物の反応をダイレクトに感じる事が出来ます。分からないことがあれば先輩農家の方々にどんどん質問してください。

加西市でトマトの就農に興味を持った方は、まずはこちらにご連絡ください

○加西市新規就農促進協議会（加西市農政課担当：田中・松本）

電話 0790-42-8741

メール nosei@city.kasai.lg.jp

（参考）加西市HP



<https://www.city.kasai.hyogo.jp/soshiki/21/1960.html>

○加西市施設そ菜園芸生産研究会 加西とまと出荷組合

（JA 兵庫みらい 加西営農生活センター内）

電話 0790-47-1286

役割分担

施設そ菜園芸 生産研究会（加 西とまと出荷 組合） 役員 担い手	・ 農業体験サポート ・ 農地確保のサポート ・ 技術指導
加西市 （加西市新規就農 促進協議会）	・ 就農相談窓口 ・ 農業支援制度、移住支援制度の情報提供、調整、実施 ・ 応援チームの事務局 ・ 住居確保のサポート（空き家バンク等を活用） ・ 地域の溶け込み支援（地域行事への参加案内など） ・ 営農する集落（区長・農会長）との調整
JA 兵庫みらい （加西市新規就農 促進協議会）	・ 融資相談 ・ 機械や施設の確保のサポート ・ 販路サポート
加西農業改良 普及センター （加西市新規就農 促進協議会）	・ 技術指導 ・ 農業支援制度の情報提供、調整、実施